

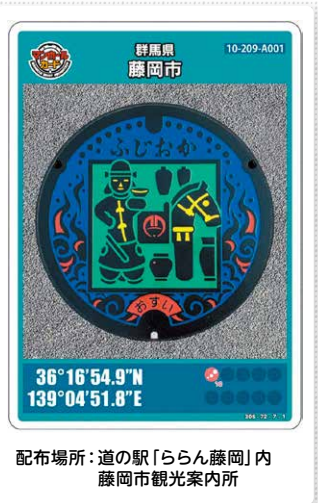


— マンホールカードで巡る群馬の旅① —



藤岡市の鬼瓦 観光ぐんま写真館提供

ものづくりのまち・藤岡へ



配布場所：道の駅「ららん藤岡」内  
藤岡市観光案内所

各地の名所や特産品を描いた「当地マンホールカード」をご存じですか？現地で無料配布され、集めて歩く楽しみは街の新たな発見につながります。今回から、カードを手にほべたんと群馬を巡りましょう！

第一回は藤岡市。カードには古墳文化を伝える埴輪と須恵器、そして鬼瓦が描かれています。「どうしてこの3つなのかな？」ほべたんは謎を解こうと藤岡歴史館へ。市文化財保護課の軽部さんに話を聞きました。

「藤岡市には1500基以上の古墳があり、その数は東日本屈指です。古墳時代、この地はヤマト王権の屯倉（直轄地）とされ、古墳を築ける力を持つ豪族が多く住んでいました。山と川に囲まれ、良質な粘土や燃料の木材、三波石などの石材にも恵まれていたため、ものづくりが発達していました。渡来人によつて窯の技術が伝わり、硬く焼きしめた須恵器もつくられ、藤岡は埴輪や土器の一大生産地へと発展したのです」

館内には、旧石器時代から中世までの出土品を展示。石器や土偶、高さ1mを越える大型田筒埴輪、「笑つ埴輪」に、ほべたんは目をキラキラ。

歴史館は、かつて270基が集まった

白石古墳群の中にあります。6世紀の古墳では東日本最大級の七輿山古墳や、水玉模様になる石が積まれた石室が美しい伊勢塚古墳など、個性豊かな古墳に出合えます。

古墳時代が終わると瓦づくりが始まり、屋根に魔除けとして飾られる鬼瓦もつくられました。地元の土と薪を使い、だるま形の「だるま窯」で焼き上げる藤岡瓦は、関東の町々をいぶし銀の輝きで彩ってきました。昭和50年代以降、産業は縮小しましたが、瓦職人や鬼瓦を手彫りする鬼師の技は今も受け継がれています。

最後にほべたんは、市の花である藤の名所「ふじの咲く丘」へ。全長350mにおよぶ藤棚、45種の藤があり、春は紫や白、ピンクの花が咲き競います。「藤岡ふじまつり」も開催され、ふじの即売会や物産市、野外コンサートなどにご覧いただけます。



伊勢塚古墳の石室



ふじの咲く丘



**藤岡ふじまつり**  
期間：令和8年4月18日(土)～5月6日(水)  
会場：藤岡市藤岡2690-7  
ふじの咲く丘・ふじふれあい館  
入場料：無料  
駐車場：850台(みかほらい館)  
問合せ：藤岡市商業観光課0274-40-2317



**虎屋本店**  
住所…藤岡市藤岡138  
TEL…0120-32-0118  
営業時間…9:30～18:00  
定休日…無休(元日のみ休み)

「食べられる鬼瓦」とあると聞き、創業121年の和菓子店へ。種類豊富な和菓子が並び、鬼瓦型の最中や焼き菓子が目を引きまします。迫力ある鬼の意匠は、藤岡の鬼師で「現代の名工」の山口茂氏によるもの。中でも人気は最中にサブレ生地を詰めた「鬼サブレ」で、香ばしい皮とバター風味、サクサク食感が重なる逸品です。

編集だより

宅配ではお届けしている全てのカタログを回収しリサイクルしています。ご不要の場合は、担当者へ渡すか配達器材に入れてお戻しください。

※掲載した店舗・施設は、定休日以外に臨時休業となる場合もあるので、ご了承ください。  
※一部取材先より画像をお借りしています。